

チャレンジ鹿児島労働局（23年3月）

鹿児島労働局

〒892-0816 鹿児島市山下町 13-21

TEL 099-223-8275

URL <http://www.kagoshima.plb.go.jp>

2月の有効求人倍率は 0.51 倍で、 前月を0.01ポイント上回る

鹿児島県の2月の有効求人倍率(季節調整値)は0.51倍となり、前月(0.50倍)を0.01ポイント上回りました。

新規求人倍率(季節調整値)は0.80倍となり、前月(0.83倍)を0.03ポイント下回りました。

新規求人数は前年同月比15.6%の増と13ヶ月連続の増加となりました。

産業別では、建設業(11.7%増)は13ヶ月連続の増加、製造業(13.0%減)は4ヶ月ぶりに減少、運輸業、郵便業(22.2%増)は2ヶ月連続の増加、卸売業、小売業(0.7%減)は6ヶ月ぶりに減少、宿泊業、飲食サービス業(30.1%増)は2ヶ月連続の増加、医療・福祉(25.1%増)は13ヶ月連続の増加、サービス業(45.7%増)は2ヶ月連続の増加となりました。

新規求職者数は前年同月比3.3%の増と3ヶ月ぶりに増加となりました。

新規常用求職者の態様別では、在職求職者(7.5%増)は2ヶ月連続の増加となりました。また、離職求職者(0.7%増)は3ヶ月ぶりに増加、無業求職者(5.2%増)も3ヶ月ぶりに増加となりました。

離職求職者の内訳では事業主都合離職者(14.8%減)は15ヶ月連続で減少し、自己都合離職者(6.9%増)は4ヶ月連続の増加となりました。

政府の3月の月例経済報告では、景気の基調判断を、「持ち直しに転じているが、自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。」一方、雇用情勢については、「依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。」と報告されています。

鹿児島県の雇用情勢は、新規求人数が増加傾向で推移しており、持ち直しの動きが強まっているものの、一部の産業による大幅な求人の増加、緊急雇用対策事業求人の下支えが大きく、また今後、東北地方太平洋沖地震の影響も懸念され、依然として安定的な求人増とは判断し難い状況です。一方、新規求職者数は前年同月と比べ3ヶ月ぶりに増加となり、有効求職者数は平年と比べると高水準で推移しています。この結果、有効求人倍率では改善の動きがみられるものの、依然として全国との格差があり、厳しい状況が続いています。

鹿児島労働局では厳しい雇用情勢の下、雇用のセーフティネットとして、9月10日に閣議決定された、「新成長戦略実現に向けた3段階の経済対策」及び、10月8日閣議決定された「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」に盛り込まれた雇用対策を積極的に活用し、雇用維持や就職支援等に取り組み、今後とも一層効果的な行政の展開に努めて参ります。
(職業安定部職業安定課)

有効(新規) 求人倍率の推移

